

★今週の聖句

わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。

ヨハネによる福音書 14:27

★ねらい

- ・別れは悲しみと寂しさ、不安をもたらします。しかしイエス様は弟子たちと別れる際にも、平和(平安)を残して行かれます。
- ・イエス様は決して人を孤独のままにされません。

★ポイント

- ・十字架の死は終わりではなく、イエス様が父のもとに帰られることです。
- ・イエス様は去っていくにあたり、残される弟子たちを気遣われます。
- ・彼らが平安のうちに十字架の真理を知るために聖霊の働きを与えられます。

★豆知識

- ・この箇所は、過ぎ越しの祭の前、いわゆる「最後の晚餐」の席上で語られたイエス様の「告別の説教」の一部です。
- ・イエス様が残される平和は、十字架による平和です。この平和は聖霊によって理解されます。

★説教

「え～、そんなこと嘘だ！絶対いやだ！」エリカちゃんのお父さんがお仕事で外国に行かなければならなくなったのです。いつも一緒にいたお父さんとはばらく会えなくなってしまうのです。エリカちゃんは悲しくて仕方ありません。お父さんがいなくなると聞いてから毎日泣いてばかり。お父さんもお母さんも困ってしまいました。そんな時、離れた所に住んでいたおばあちゃんがやってきました。お父さんとお母さんがエリカちゃんを慰めてほしいとこっそりお願いしたのです。エリカちゃんはおばあちゃんに来てくれてとても嬉しかったけど、心の底にはお父さんがいなくなることが忘れられなくて、いつものようには喜ぶことができませんでした。そんな時、おばあちゃんが、自分のお父さんのことを話してくれました。ひいおじいちゃんのことです。ひいおじいちゃんは工場で働いていたけど、途中で病気になって仕事を辞め、毎日おうちで寝ていました。おばあちゃんはひいおじいちゃんが毎日家にいてくれてうれしかったけど、おじいちゃんの病気はなかなか良くなって苦しそうでかわいそうに思ったそうです。そこでおばあちゃんは神様にお祈りしました。「お父さんと一緒にいられるのはうれしいけど、お父さんの病気がなおってお仕事ができるようになるのはもっと嬉しいです。どうぞお父さんを元気にして下さい。」毎日お祈りしました。毎日お祈りするうちに、おばあちゃんはお父さんと一緒にいることも大事だけど、一番大事なことはお父さんが元気に働いてくれることだと思えるようになったそうです。少し時間がたったけど、ひいおじいちゃんはだんだん病気がよくなって、またお仕事を始めることが出来るようになったそうです。このお話を聞いていたエリカちゃんは、お父さんのことを考えました。お父さんと一緒にいられなくなることは、とってもさび

しいことだけど、一番いいことはお父さんが元気にお仕事をしてくれること、そして元気ならば、外国から時々帰って来てまた一緒に遊んでくれると思うようになりました。おばあちゃんは一番いいことに気づかせてくれたんですね。

イエス様は十字架にかかって弟子たちの前からいなくなります。でも聖霊が弟子たちにイエスさまの十字架のことを分かるようにして下さり、けっしてイエスさまと離れ離れになるのではないことを教えてくれました。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

4 4 番

1 2 0 番（改訂版）

やってみよう

目かくしをして言葉と音を頼りに目的の所へ行くゲームをしてみよう。

用意するもの・・・目隠し用の布（スカーフ、バンダナなどを折りたたむ）

・すず、タンバリン、たいこなど音の出る物

- ・スタートとゴール（スタートから数メートル先）に目印をつける。
まわりにぶつかる物がないように場所を空ける。
- ・ゴールに音の出る物を持っている人が立つ。
- ・スタートに目かくしをした人が立ち、ゴールの人が出す音を頼りに歩いて近づいて行く。右にそれたり、左にそれたりして歩いていたら「もっと右、もっと左、まっすぐそのまま」と言葉かけをしてゴール出来る様に助けてあげる。
- ・ゴールしたら次の人にチェンジする。

話してみよう

・・・

- ・イエス様のお話に出てくる「その事が起きる前に」という言葉の中の「その時」とは何の時？
- ・イエス様が残して下さった「平和」ってどんなことだろう？

★今週の聖句

祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。

ルカによる福音書 24:51

★ねらい

- ・昇天を科学的に知ろうとするのではなく、ありのままの出来事として受け止めたい。
- ・そこには神さまの不思議さと現代のわたしたちへの深い配慮があります。

★ポイント

- ・昇天によってイエス様の姿は見えなくなります。昇天は理解しがたい出来事です。しかしそれはイエスさまが時間と場所を超えた存在となられたことを意味します。
- ・それは時代と場所の異なる現代のわたしたちと共におられることを教えています。私たちは「見ないのに信じる、幸いな」（ヨハネ20：29）時代に生きるのです

★豆知識

- ・祝福はイエス様が弟子たちを神の守りと恵みに委ねる祭司的な行為です。弟子たちは聖霊が来る前にこのイエス様の祝福の中にあります。
- ・天に上げられたのは、イエスさまの外には預言者エリヤ（列王記下2章）がいます。

★説教

イエス様は弟子たちの前に立ち、いつものようにお話しをされました。お話しの後、これもいつものように祝福のお祈りをされます。ところが、今日はいつもとはちがっていました。両手を上げて祈っておられるイエスさまが、風船が飛んでいくようにだんだんと天に向かって昇って行かれるのです。弟子たちは、「わあー！ どうされたんだ！」と騒ぎ始めました。弟子たちはイエス様が十字架にかかって死んだと思っていました。しかし復活してみんなの前にその姿を現してくださいました。それで前と同じように一緒にいてくださると、みんな安心しきっていたのです。ところが、今度は祝福の姿のまま天に昇って行かれる。これに驚かない人はいませんでした。そしてやがてその姿は見えなくなったのです。イエス様はまた弟子たちの前からいなくなったのです。直接見ていた弟子たちも信じられませんが、それを今聞いている私たちにも信じられないことです。

でも、今度は、弟子たちはさびしくも恐くはありませんでした。イエス様が聖霊を与えられたからです。聖霊は神さまの心を教え、勇気と喜びを与えるのです。たとえイエス様が見えなくなっても、弟子たちの心にはしっかりとイエス様がおられると聖霊が教えてくれるのです。見えることがいつも大切なわけではありません。見えないからいないということもできません。遠くの物が見えないように、私たちに見えることはほんの一部だけです。小さな音は聞こえないように聞こえるのはほんの一部だけです。見えない、いないとおもっても、神様はおられるのです。

見ないで信じることは大切なことです。今の私たちもイエス様を見るのが出来ないからです。イエ

ス様が弟子たちと一緒にいられたのは遠い昔のことです。2000年も前のことです。それも私たちが住んでいるところから遠く離れた外国です。私たちはどうやってもイエス様に直接会ってこの目で確かめることは出来ないのです。でも聖霊はそんな私たちに安心しなさいと教えるのです。イエス様は私たちの心の中におられるからです。私たちがイエス様を忘れても、イエス様は私たちを忘れられません。どんな時も一緒にいて下さいます。たとえひとりぼっちだと思っても、イエス様は確かに私たちの心においてくださるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□132番

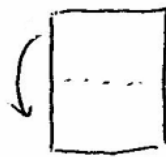
□92番（改訂版）

やってみよう

祝福をしながら天に昇られたイエス様を作ろう

用意するもの…コピー用紙（白） 画用紙（顔用） サインペン

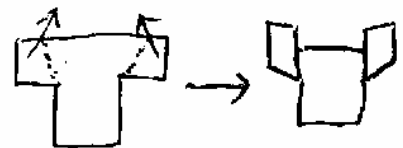
作り方…①コピー用紙をたて長に置き、2つに折る



②2枚一緒に線の所を切り込みを入れ、点線の所を後ろ側に折る。



③うでの部分を点線の様に折り上げて、手を上げている様に上に向ける。



④画用紙に自分で体に合うような大きさのイエス様の顔を描く。

⑤画けたら切りとり、顔に貼る。

話してみよう

- ・天に上げられたイエス様を見て弟子たちはどんな事を思ったのだろう。
- ・「高い所からの力」（49節）って何かな？

★今週の聖句

わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る。

ヨハネによる福音書 16:4b - 11

★ねらい

- ・イエス様はたとえ目の前にいらっしゃらなくても、聖霊の神様が私たちと一緒にいて下さり、私たちに生きる力を与えて下さいます。

★ポイント

- ・聖霊降臨は不思議な出来事です。しかし、「死んだようになっていた」弟子たちが、この聖霊によって「いのち」を与えられ、宣教者として力強く歩み出すのです。
- ・聖霊降臨の出来事によって教会が生まれ、イエス様の福音は世界中の人々に伝えられていきます。

★豆知識

- ・「弁護者」は「助け主」とも訳される言葉で、この場合「聖霊」を指しています。
- ・聖霊は「プネウマ」と言われ、「風」や「息」という意味です。
- ・聖霊降臨の様子は使徒言行録第2章に詳しく書かれています。
- ・聖霊は視覚的に認識できるものでも、言葉で表現できるものでもありません。聖書は視覚的にも言葉としても表現できない聖霊を、読者の理解のためにあえて「炎のような舌」と表現しました。
- ・人の言葉はバベルの塔の出来事(創世記 11章)によって散らされました。今、聖霊降臨によって、和解と一致がもたらされます。

★説教

弟子たちにとってイエス様は素晴らしいお話をし、不思議な奇跡を行う凄い先生で、みんな大好きでした。自分たちがそんなすごい先生の弟子であることは、彼らにとってとても自慢でした。ところがそんな先生が十字架にかかって死んでしまうのです。弟子たちは、頼りにしていた、自慢だった先生がいなくなり、悲しみとさびしさでいっぱいでした。それだけでなく自分たちもイエス様を殺したユダヤ人やローマの兵隊に捕まるのではないかと怖くてびくびくしていたのです。それで弟子たちはみんなで一軒の家に集まり、鍵をかけてこっそり隠れていました。そこにイエス様がいらっしゃったのです。イエス様は死んでいたのに復活されたのです。復活の体は生きている時の体とは違いますから、部屋の壁も通り抜けて来られたのです。まるで幽霊のようですね。弟子たちもそう思いました。ところがイエス様は「幽霊ではない」と言って、「足を見なさい」と言ったり、焼いたお魚を食べて見せたりされたのです。幽霊じゃないと知って弟子たちはとても嬉しくなりました。またイエス様に会えたのです。そしてこれからまたイエス様と一緒にいることが出来ると思いました。しかし、イエス様は天の父なる神様のもとに帰らなければなりません。また弟子たちは取り残されてしまうのです。このままでは弟子たちがまた元気がなくなってしまうのはイエス様にもよくわかっていました。そこでイエス様は弟子たちが悲しくならないように、さびしくならないように聖霊を弟子たちのところに送られるのです。

ある日のこと、いつものように弟子たちは集まっていました。ところが、突然風が吹いてくるような大きな音が聞こえ、家中に響き渡りました。それだけではありません。舌のような形をした炎が現れたかと思うと、分かれて弟子たちの頭の上にとまったのです。すると弟子たちはいろいろな国の言葉で話し始めたのです。イエス様が十字架にかかってから、弟子たちの元気はなく、口数も少なくイエス様のことを話そうとはしませんでした。ところがこの出来事によって、突然イエスさまのことをたくさん、それも外国の人がわかるような言葉で話し始めたのです。これがイエス様のことが世界に広まった初めの出来事です。ですから、この出来事は教会の誕生日と言われていています。

聖霊は目に見えません。だから聖霊はこんなもんだよということができません。皆さんは、風を見たことがありますか。誰も見たことがないと思います。風も目に見えないからです。見たことがあると思っている人も、きっと風そのものを見たというより、風で動く木の枝やこの葉を見て、「あっ、風が吹いた。風がある。」と思ったのかも知れませぬ。聖霊も風と似ています。聖霊は見えますが、聖霊の力が働いたことは分かるのです。弟子たちがイエス様が死んで元気がなくなっていたのに、イエス様が聖霊を送られると、イエスさまの十字架の意味がよくわかって元気になりました。そこから聖霊が働いたことがわかるのです。私たちにも聖霊は働いています。心を神様に向けると聖霊が働いていることを感じるようになります。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

4 2 番

9 6 番（改訂版）

やってみよう

「わたしは道であり、真理であり、命である」 このみことばを伝言ゲームで伝えてみよう。

- ・人数によって2列、3列に並んでもよい。
（一列の人数は4～5人くらい）
- ・先頭の人がみことばを書いたカードを一枚ずつ持つ。
- ・そのみことばを次の人に伝えていく。耳元で小さな声で。
（何列もグループができる時はスタートの合図で一斉に始める）
- ・最後の方は紙をもらい、そのみことばを書いて待つ。
- ・皆が伝え終わったら、最後の方はそのみことばを読む。
- ・合っていたら拍手！そのあとみんなで言ってみよう。

話してみよう

・聖霊はわたしたちにどんなことを伝えてくれるかな？お祈りをしている時、讃美歌を歌っている時、みことばを学んでいるとき、神さまと一緒にいて下さることを感じることはあるかな？

★今週の聖句

真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。

ヨハネによる福音書 16:12 - 15

★ねらい

- ・神様がいろいろな仕方(父と子と聖霊)で私たちの前に立ち、私たちを救いに導いてくださいます。
- ・父と子と聖霊の神は、理解するのではなく、信じるのが大切です。

★ポイント

- ・神様が父と子と聖霊の三位一体の神であることは、父なる神・子なるキリスト・聖霊がひとりの神であることを教える、キリスト教の大切な教理です。
- ・ひとりの神様が三つの仕方です。私たちに向き合ってください。
- ・それはH₂Oが環境によって水、氷、水蒸気として認識されることと似ています(井上洋治神父)。

★豆知識

- ・教会暦は通常イエス様の生涯と結びついていますが、三位一体主日は教会暦の中で唯一教義的な日です。

★説教

さとし君のお父さんは中学校の理科の先生です。ある日、お父さんの学校の生徒のお兄さんやお姉さんが家に遊びに来ました。その時、お兄さんやお姉さんは、お父さんのことを「先生、先生」と呼んでいました。僕は、お父さんなのに先生というのは変だなと思いました。でも、そう言えば、教会学校の友達もお父さんのことを「先生、先生」と呼んでいたことを思い出しました。さとし君のお父さんは教会学校の校長先生だったのです。さとし君は思いました。お父さんは僕のお父さんだけ、お兄さんやお姉さんたちにとっては理科の先生、教会学校の友達にとっては校長先生なんだな。ひとりのお父さんがいろいろな顔を持っているんだな。とても不思議だったけど、お父さんがなんだかとても大きく感じました。

神様は海や山、草や木、いろいろな動物を造られた方です。でも、イエスさまも神様って言いますよね。イエス様はお弟子さんたちといろいろな場所を旅をして、神さまのお話をしたり、病気の人や困っている人たちを助けたりしました。十字架にかかって死んだけど、天に昇られて父なる神様のところと一緒におられます。イエス様は聖霊の神様をお弟子さんたちに残して行くとも言いました。イエス様がいなくなってさびしくなり元気のなかったお弟子さんたちをこの聖霊の神様が助けて元気づけてくださるのです。でもそうすると、神さまはすべてを造られた父なる神様とイエス様と聖霊の神様の三人がいらしゃるのかな。でも聖書には、神様はひとりだと書いてあります。???。何だかわからなくなりましたね。1+1+1=3なのに、1+1+1が1だというのですから。

最初のさとし君のお父さんの話を思い出してください。さとし君のお父さんは一人でも、理科の先生と教会学校の校長先生とお父さんの三つの「顔」を持っていました。神様も同じです。すべてを造

られた神さまだけど、みんなと会う時にはイエス様です。そしてイエスさまに会うことのできない今の私たちには聖霊の神様として心の中に来てくださるのです。神様はすべての人に会い、働いてくださるためにいろいろな「顔」で私たちに出会ってくださるのです。それだけ神様は私たちのことが大好きで、私たちを愛し、私たちといつも一緒にいたいと思って下っているのです。私たちもいつも神さまのことを忘れないでいたいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

7 番

9 5 番（改訂版）

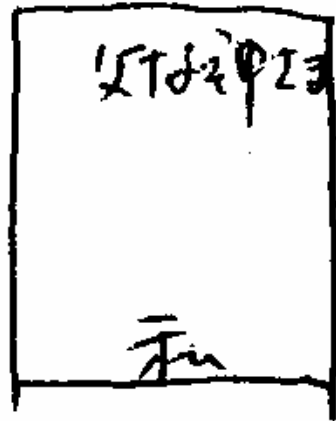
やってみよう

はじき絵をしてみよう

用意するもの…・画用紙の上に「父なる神さま」と書き、

下に「私」と書いたもの

- ・白いクレヨン
- ・黄色いえの具を水でといておく
- ・ふで



作り方…①画用紙の「父なる神さま」と「私」の間に白いクレヨンで道を描く。太くても細くてもお花や木や好きな物を描いてもいい。

②道を描き終えたら、黄色いえの具の液をふでにつけ、上から全体にぬっていく。

③道がはじかれてよく見えるかな？

話してみよう

・白い道をつけているだけの時より黄色いえの具をぬった方がよく見えるようになったね。たとえとしてイエス様は道、聖霊はえの具。

・「父と子と聖霊の御名によってアーメン」と祈るのはどうしてかな？